

第三回田嘉里山筆者会研修会報告書

日 時 : 2014 年 12 月 14 日 (日) 9 時～17 時

場 所 : 琉球大学風樹館～北中城字大城区

目 的 : 風樹館でやんばるの自然・文化について学ぶ。
北中城村字大城区の花咲爺会の活動を見聞し、これからの田嘉里区の地域活動の糧にする。

主 催 : やんばる学びの森

参加者

名簿参照 (前川報恩会注記: HP公開につき、個人情報保護の観点から割愛させて頂きました。)

準備するもの

事務局: 弁当・研修資料・アンケート用紙・筆記用具

プログラム

12 月 14 日 (日)

9:30: 集落センター出発

11:00: 昼食 (高速サービスエリア)

12:30: 風樹館到着

13:30: 風樹館出発

14:00: 北中城字大城集落の見学。

花咲爺さんの話を聴く。

15:00: 帰途

車中: アンケート回収

17:00: 集落センター到着。解散

お疲れさまでした。

風樹館到着



たまに見かけるけど貴重なんだ！



ハブも大切な仲間？



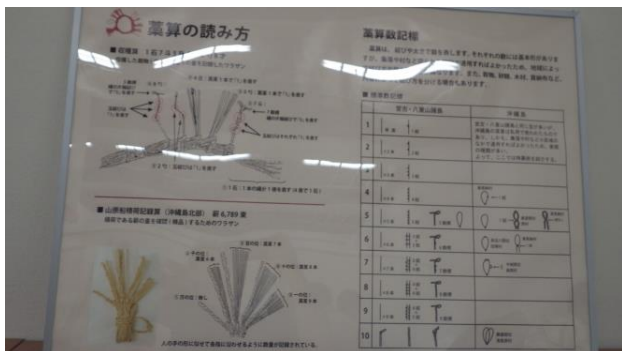
この前 山で見た！



このコウモリは果物を食べます。 田嘉里のリュウキュウ松もこれくらいあったかな



ワラザン・・・お爺が使っていた。風樹館のビオトープ、在来種のヤギの親子がいた。



北中城村の大城区到着

「大城花咲爺会」

大城区公民館



多目的広場（彫刻広場）

芸術家からの寄贈の彫刻だが、遊具のように親しまれていた。



手作りのシーサーで塀を楽しく



ランの花を咲かせましょう（管理が易しいからとのこと）



芸術に見えてくる～



個人の庭にもオブジェ。 池の上に舞台を設置し音楽界も開催したとのこと！



大城花咲爺会の憩いの喫茶



大通りもきれい！



研修に参加して（アンケートによるまとめ）

☆私が気づいたこと

- ・地元の生き物、文化がやがては無くなるかもしれないと思うとさみしい。
- ・地域で部落づくりをしていることがすごい。
- ・地元のことが分かっていなかった。もっと周りをよく見ようと思う。
- ・地域おこしはそこにあるものだけではなく、新しいものを取り入れることも大切だと思った。

☆私が楽しかったこと

- ・サバニ、やんばるのこと、赤がわらの話もおもしろかった
- ・マイクロバスに乗って団体で視察研修できたこと。
- ・年齢に関係なく一緒に行動できたのが良かった。
- ・みんなと一緒に過ごせたこと、本部町出身だけど田嘉里に近付けた。
- ・喜如嘉小学校の生徒と過ごせたこと。
- ・弁当がおいしかった。
- ・はじめて風樹館に行ったこと。

☆私が驚いたこと

- ・セマルハコガメやリュウキュウヤマガメが中部にもいた（持ち込まれて）ということ。
- ・ビオトープが主にドイツで発達したこと。
- ・北中城村大城集落の道路にごみが落ちていないこと。
- ・沖縄や特にやんばるに貴重な生き物が思っていた以上にたくさんいること。
- ・大城集落のきれいな景観を集落のボランティアが楽しく守っていること。
- ・大城集落は開発が進み緑が激減したので、できるだけ在来種を取り入れて緑を増やしていきたいと取り組んでいること。
- ・芸大、行政、大城集落のファンなど繋がりを大切にしてボランティアを中心にいろいろな取り組みがされていること。
- ・久高島や先島ではジュゴンを食べていた地域があった。
- ・風樹館は金城キク商会の協力で立てられた

☆今日の体験を通して田嘉里区ややんばるの自然・文化について分かったこと

- ・やんばるの自然の大切さを知った。
- ・田嘉里区の昔からの行事や自然を大切に残してほしい。
- ・やんばるの大自然を壊してほしくない。

- ・いなくなっていく動物や自然を頑張って守っていくしかないと思った。
- ・琉球大学でやんばるに棲む動物の大切さを知った。
- ・やんばるはいいところだと分かった。

☆今日の体験を通して田嘉里区にすぐにでも取り入れたいこと

- ・道の横にプランターはおけると思う。
- ・少しでもいいから地域行事や村づくりに参加したいと思った。
- ・自分ができることから考えて始めたい。
- ・区の理解や協力を得て区の独特なイベントをしたほうがいいのかもかもしれない。

☆その他気づいたこと

- ・今日は声をかけてくれてありがとうございます。またよろしくお願いします。
- ・花咲爺会の代表さんから「地域おこしはできる人ができる範囲で行い、参加しないことに文句を言わない。一度でも参加したら感謝しあうこと」と聴いて驚き、反省した。
- ・「村づくりはいい気持ちで生活できる場所を作ること」だと教えてもらった。
- ・空き地の有効利用を考えたい。
- ・参加してとてもいい一日でした。またいっしょにどこか行きましょう。

考 察

やんばる学びの森の山川氏からやんばるの自然・歴史・文化を学ぶのに琉球大学の風樹館が最適である。また地域おこしの先進例として琉球大学の道程にある北中城村字大城区の取り組みを見学したほうが良いとの助言を得て、今回の研修会を企画した。

アンケートが示すように、参加者は風樹館での研修で、やんばるで日ごろ目にする生き物がやんばるに特有の生物で、やんばるが生物の多様性に富んでいること、そしてその貴重な生物が絶滅しつつあること、今守る努力が必要であることを学ぶことができた。

また、ジュゴン、サバニ、赤瓦などの話を聴くことで沖縄の文化の独自性を学んだ。

北中城村大城区の視察では、「地域活動について参加しないことに不満は言わない、それぞれができる範囲でやること、一度でも参加したら感謝する」ことなど地域おこしにおける心構えや、そこにあるものだけではなく、新しいもの（大城区においては芸大生の作品など）を受け入れることも大切であることを学んだ。

参加者は小学6年生から80歳代の方まで16名であった。マイクロバス一台で行動することで異年齢間の交流の場となった。そして、それぞれのレベルで地域のことを考えるきっかけになったと思われる。

この交流の成果を今後の地域おこし活動に活かしていきたい。

※前川報恩会注記：HP公開にあたり、個人情報保護の観点から了承を得た方以外の個人名記載のある部分に関しては、表現を変更させて頂きました。